

頸城焼山北面台地

2010年5月2~4日

山本(L)、釣、平本(記)

近頃、山スキーヤーに注目の焼山北面台地だが、火打山から滑り込んで通過する方が多いようである。山本さんからこの北面台地にベースを張り周囲の山を登って滑ろうという企画を頂き、非常に興味を持った。

5/1(土)~5/2(日)

前夜に橋本駅集合、途中のSAで仮眠をとりながら北陸道経由で糸魚川へ。

笹倉温泉上の大きな堰堤付近に駐車してすぐにスキーを履き、ツツラ折れの林道を登る。アマナ平まで概ね林道付近を進み林道が焼山川へ下り出す前に左面の山腹を絡んで登る。付近は地形が凹凸に富み、わかりにくい。天気良くても地形図上の現在地をGPS無しで細かく割り出すのは難しい。

前方に北面台地のテーブルが見えてくると傾斜の緩い所を選んでルートを選んで行くのは難しくない。もっとも、今日は登山者が多く、トレースがあるのでこれもある程度はあてにできる。

北面台地に登り付いたところが丁度、展望台という場所ようだ。広大な雪面の彼方に焼山を中心として、火打山と屋間山に続く高松山が広がり、非常に景色のいい場所である。すでに適当に間隔を保ってテントが数張りあるので、我々も付近に張ることにする。

今日は時間もあまりないので、様子見に焼山方面の1800m付近まで登って周囲の状況を偵察し、滑りを楽しんだ。

5/3(月)

今日は焼山登頂を目指す。

昨日、偵察をしておいた付近までは一気に登る。傾斜が急になって岩稜末端になる辺りを西方面へトラバースするが、その手前には深いクレバスがあり、注意を要する。1950

m付近でスキーはデポして歩きに変える。スキー靴は大変に辛く、優れない体調を整えるためにも大休止をもらう。

2000m付近からは傾斜が緩んで、回り込んできた岩稜裏側を南に直上するトレースがあり、これに従う。

途中には冬毛から夏毛に変わる途中の雷鳥カップルを間近で観察できた。

2300mで山頂のお釜に出る。

ここまできると急に元気が出て、2400mの山頂まで一足等である。

屋間山へのアプローチや相変わらずのんびりした雷鳥たちを見ながら、スキーデポ地点まで下る。今日は雪が緩んでいるが、クラストするなど状況によってはアイゼン、ピッケルが必要な斜面である。

デポ地点からスキーを履いて、テントまで写真を撮ったりしながら楽しく滑った。

5/4(月)

テントの中で検討した結果、屋間山と裏火打は今回あきらめることにした。

今日はやはり焼山で、東面の胴抜切戸方面に行くことにする。

北面台地を南へ左上して賽の河原を横断。再び左上して沢床に降り、そのまま南上する。途中の二俣は左俣に入り上り詰めると裏火打コースの下降点にでる。ここで左の沢と合流。焼山上部に向けてカール地形が広がっておりこちらに吸い込まれる。

少し登ると、本当に素晴らしい広がりや適度な傾斜を持った斜面が展開してくる。

焼山火口の噴煙も間近に仰ぐ事ができる。

いい所である。

やはり、裏火打は気になり、次回のためにルート観察をする。話に聞いていたコース末端の大滝も確認できた。時々、2~3名のパーティが現れては滑り降りて行くのが見える。

『尾根の乗越し』直後の急斜面で窮しているようにも見受けられる。

胴抜切戸まで登り詰めたい思いもあったが、

雪が途切れているし、滑りによこの付近から滑ろうと言うことで、1950m付近から下降を開始。雪が緩んでやや重いキライはあるが、何処を滑ったらよいか解らなくなるほど広大で快適な斜面を滑った。

下りは沢床に降りずに台地上を滑り降り、往路と同じ地点で沢を横断してテントに帰り着く。

天候は下り坂の模様。テントを畳んで、下山にかかる。

予想以上に入山者が多く、あちこちシュプールやトレースが散乱している。

ツヅラ折れの林道まで戻ると雪解けが想像以上に進んでいるが、何とか繋いで滑ることができた。

最後に林道脇のカタクリの群落に見送られて山行は終了となった。

- 5/2 大堰堤P 7:30～北面台地末端ベース
13:00～1800m付近 15:00～北面台地末端ベース 16:00
- 5/3 北面台地末端ベース 7:00～1950mスキーデポ 11:00～焼山山頂 13:00～950mスキーデポ 14:20～北面台地末端ベース 15:30
- 5/4 北面台地末端ベース 6:00～賽の河原横断 6:50～2本目沢床 7:45～沢合流裏火打下降点 8:30～1950m下降開始 11:20～北面台地末端ベース 13:00 (14:00)～大堰堤P下山 16:00

地形図：湯川内、妙高山(2万5千)